第22回大学教育研究フォーラム
2016年3月17日(木)
於 京都大学

社会的評価における早稲田大学の位置付けと戦略的ベンチマーキングに関する研究
―女子学生の進学動向をめぐって―

早稲田大学大学総合研究センター　姉川 恭子《anegawa.kyoko@gmail.com》

背景

WASEDA VISION 150

女子学生（学部・大学院）
18,800人 ⟶ 25,000人／50,000人（50%）
女性教員
226人 ⟶ 600人（30%）
●2012年の数値を基準とし2032年を最終年度として数値目標を設定

目的

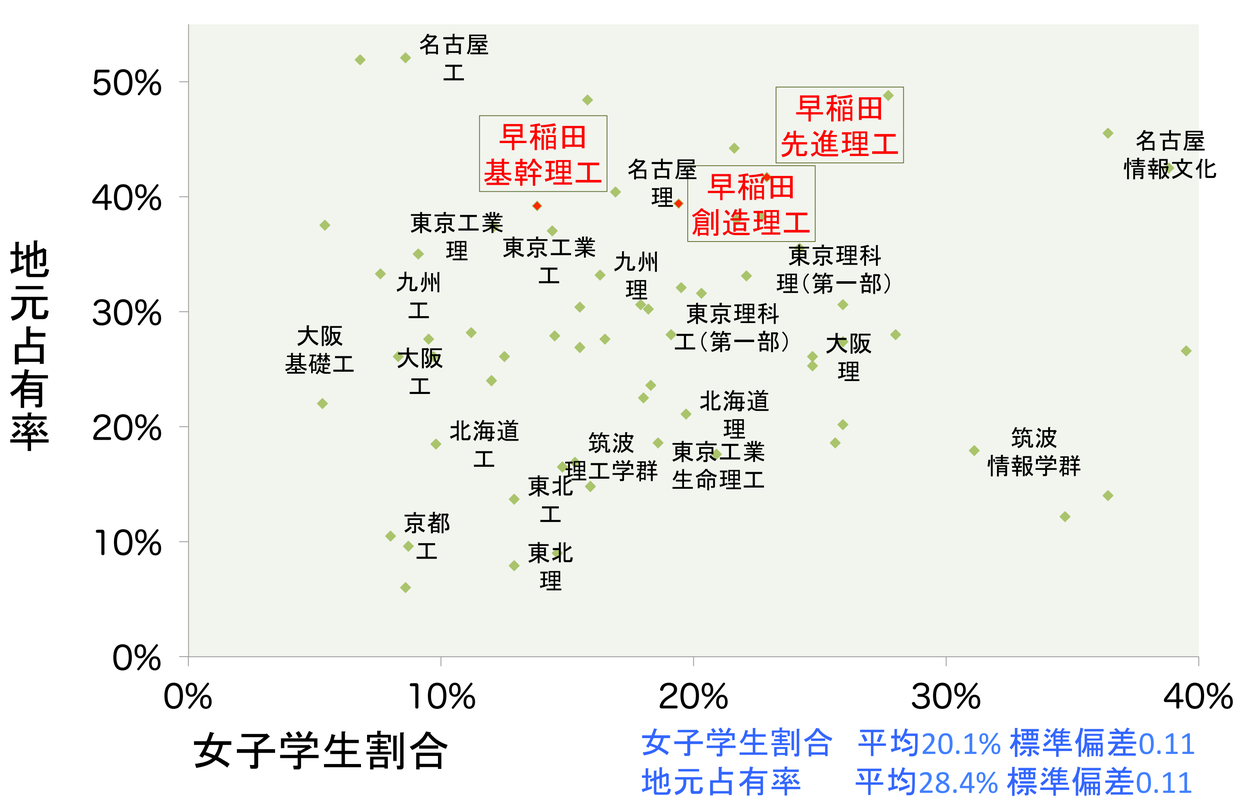
●他大学とのベンチマークを通して本学の強みと弱みを把握すること
●本学女子学生の入学動向及び卒業後の進路について検証すること

分析対象校

●国立大学は官立大学
●各学部の偏差値平均が60以上
●総合大学かつ学生数10,000人以上
⟶ 国立大学19校＋私立大学12校

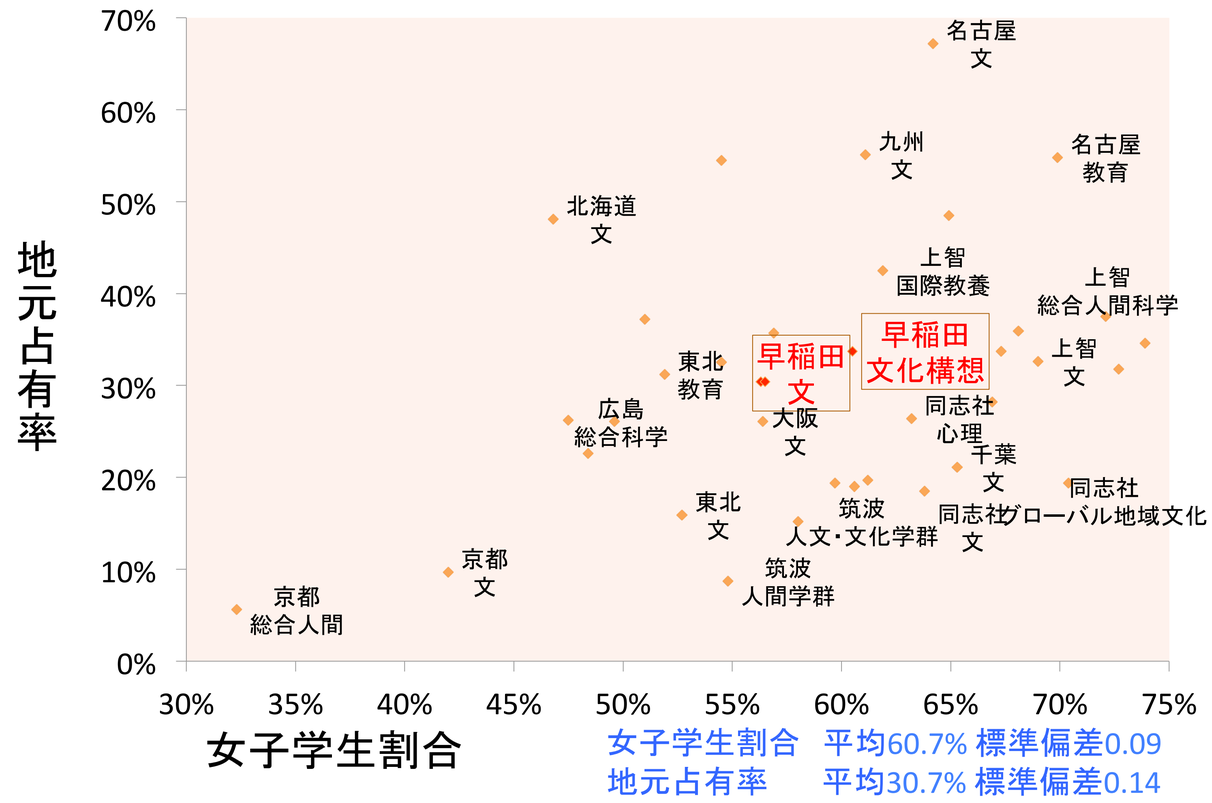
女子学生の割合×地元占有率

理学部・工学部　29大学78学部（2014）



女子学生割合　平均20.1% 標準偏差0.11
地元占有率　平均28.4% 標準偏差0.11

文学部　25大学50学部（2014）



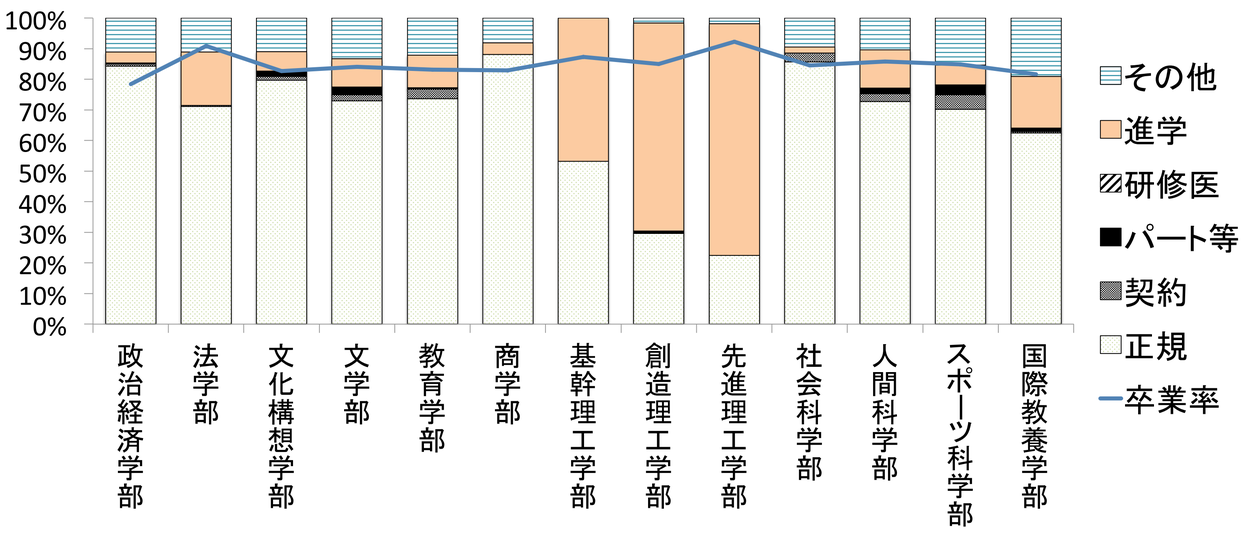
女子学生割合　平均60.7% 標準偏差0.09
地元占有率　平均30.7% 標準偏差0.14

【出所】旺文社『大学の真の実力』(各年版)、2016年度版朝日新聞『大学ランキング』より作成

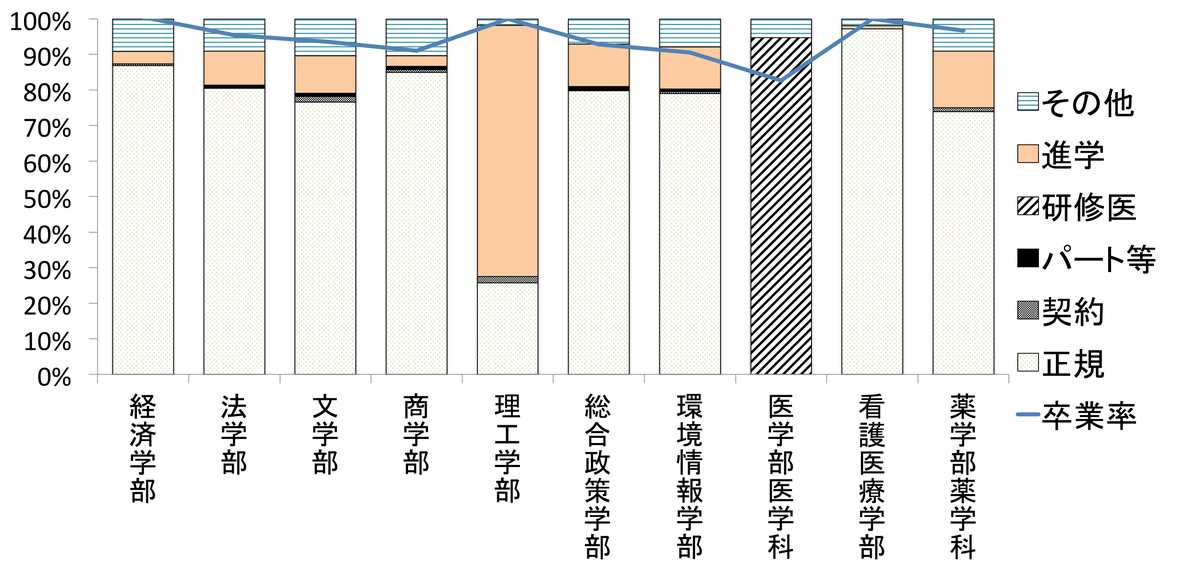
●理学部・工学部の女子学生割合はいずれの大学も低く、平均は20.1%となっている。特に本学や名古屋大学は地元占有率が高い。一方、京都大学や東北大学は比較的地元外からも多く学生を集めている。
●文学部の女子学生割合は平均6割を超え、本学でも目標値の5割を超えている学部である。本学においては、文学部の方が理工系の女子より地元以外から集まっている。

女子学生の卒業後の進路

早稲田大学（2014）



慶應義塾大学（2014）



【出所】読売新聞『大学の実力』(各年版)より作成

●本学は、慶應義塾大学に比べ全体的に卒業率及び進学率が低い。
●またパートや契約の割合も、一部の学部において比較的高い。

結論

WASEDA VISION150を推進するプロセスにおいては、学生の出身地域多様性を確保しつつ女子学生を獲得するための戦略が求められる。また、単に女子学生数を増やすのではなく、就職まで含めた適切な学生支援を行っていく必要がある。